

きらり

清瀬で生きる女性に  
インタビュー

# 女性ならではの 視点からの身近な防災

清瀬防災女性の会 会長

中村千鶴子 さん

## 清瀬防災女性の会とは？

女性の視点から、各家庭および地域における防災知識と防災思想の普及、防災行動力の向上を図るとともに、地域と連携を保ち、安全な街づくりを進めることを目的に1998（平成元）年に「清瀬防災女性の会」は発足しました。

現在清瀬市内に消防署は、市役所の近くの清瀬消防署と竹丘出張所の2か所。防災女性の会は14支部あり、133名の方が在籍しています。

## 会に関わるようになったきっかけ

平成19年野塩東アパート自治会の会長をしている時に、自治会に防災女性の会の支部がないので、作ってほしいとの依頼を消防署から受けて、防災女性の会に関わるようになりました。また同時に副会長にもその話があり、職員の方に「全力でサポートする」と言われて、引き受けることになりました。でもその方々がすぐに異動になってしまっ

世界だったので、一生懸命勉強しました。

## 活動内容

昼間自宅にすることが多い女性ができる防災について考え、市内の各地域に発信しています。清瀬駅北口商店街の街頭放送での火災予防の呼びかけもその一つです。

会では2か月に1回会議を行い、活動について話し合っています。

春と秋の火災予防運動の時には、街頭でのビラ配りや、広報車に同乗して市内を回る広報活動に参加しています。また、市で行っている水防・防災訓練などにも参加。時にはバザーを行い、その収益金で火災報知機を480個購入。市に寄付して要援護者に渡したこともあります。消防署員が要援護者宅を防災診断に伺う時に、地域の中の防災女性の会の会員が消防署員と一緒に訪問するなどの工夫もしました。

## 女性ならではの視点で…

防災加工のカーテンや燃えにくい

生地の腕力バー、台所のガス回りなど火の元の危険な個所の指摘等、男性ではなかなか思いつかない生活者レベルの防災を、担い手である女性が考え提案しています。

災害や緊急事態は場所も時も選ばずに襲いかかってきます。災害時の具体的なイメージと、何がどのように必要なのかを、女性が普段から心がけることが必要だと思います。

避難所においても女性が様々な役割を果たすことで、お互いの負担を軽くすることができると思います。例えば避難所における女性の生理用品や下着などの準備と渡す人の配慮など。安心して話ができる女性が地域にいるのは大切なことです。また清瀬市は病院の多いところなので、避難される方の受け入れもあるかもしれない。

## 防災女性の会これから

現在、会員の高齢化が進み、後継者不足となっていることは否めません。防災女性の会は、清瀬の消防署



にお申し出いただければ、いつでも誰でもが入会することが出来ます。小さなお子さんがいらっしゃる若いお母さん達にも、興味を持って活躍していただける場ではないかと思っています。

中村さんは防災女性の会以外にも、小学校下校時の防犯ボランティア、地域での夜回り、円卓会議（※）への参加などの活動にも加わっているそうです。

約一時間のインタビューの間、終始笑顔を絶やさず話をしてくださった姿に、穏やかな中にも、凛とした信念と行動力を感じました。防災には自助、共助が大切だと思っていました。（野口）

※円卓会議…市が提案した地域の課題を話し合い、解決する場「コミュニティはぐくみ円卓会議」。小学校の学区をひとつのコミュニティと位置付け、その地域のさまざまな分野で活躍されている方が同じテーブルについて話し合いをする場。